

研究日誌

地域農研では、研究所独自の研究、農協および市町村との共同研究、道および関係機関からの受託研究を行っています。ここでは平成三年十一月～平成四年一月の調査研究活動の概要を報告します。

独自研究

農協合併と組織再編 (第三回農協問題定例研究会)

十二月二十六日、滋賀県立短大助教授、増田佳昭氏を招き第三回定例研究会が開催された。

最初に、増田氏から標記のテーマで話題の提供がなされた。

その内容は、現在全国的に農協の合併がすすめられているが、その背景として、農業の構造変化が挙げられる。第一の要因は、離農の進展と大型専業農家の出現によって、農協組合員の同質性が崩れてきたことである。第二の変化は、信用事業の自由化によって、農協の収益性が低下してきている。第三に購売事業面での環境変化である。

生産資材等で大規模農家層に商系が食い込み、競争が激化しているため購売事業方式の見直しが必要となっている。第四に農協職員の転職率が上昇し、職員の採用が困難となってきた。

以上の背景の下で全国各地に、広域合併農協が生まれ、合併農協にいくつかの問題が出されている。

第一に、本所への営農指導員の集中と専門化によって効率化は進んだが、農家との距離が広がった。第二に行政との関係で、合併によって町から農協への補助金が出しづらくなるという農業政策と農協

事業との矛盾。第三に、職員の賃金を高い所に合わせることや、手数料を低い方に揃えるなどから合併後の収益性が一般的に下がることである。

次に系統組織の再編の問題である。農業の構造変化の中で組織の再編が必要となってきたが、再編に際し、重要なことは、組織の段階制からのアプローチではなく、単協や県連のサイドから、事業別に徹底的に洗い直すことである。その結果として系統三段階の在り方を検討する必要がある。

以上の増田氏の課題提供をもとに討論が行なわれ、農協の事業と地域活動の問題、農協の地域に果たす役割、協同組合間共同の問題などが話し合われた。

共同研究

厚沢部町、ひだか東農協、留明管内農協を対象とした農振計画基礎調査の担当者研究会を札幌で実施したほか、栗山町農業情報システムに関わる府県先進地事例調査を行いました。

受託研究

また、ひだか東農協、留明管内農協の共同研究については、現地調査を実施しました。

本誌秋号でお知らせしました「農産物の低コスト・冷温貯蔵に関するアンケート調査」(開発局、開発協会受託研究)については、関係百十八農協を対象として実施した結果、回収率七一%で調査を終えることができました。関係者のご協力に感謝申し上げます。現在、集計作業と一部農協については現地調査を継続実施中です。「北海道における農協の規模・事業展開方式に関する調査研究」(北海道)については、道に対して府県調査結果を中心とした課題の一部について中間報告を行いました。



(パネラーを兼ねる)

◎公立学校事務職員協会石狩支部
研修会

主催 北海道公立学校事務職員
協会 石狩支部
とき 平成三年十二月六日

テーマ 北海道農業のあらまし
―農業の多面的役割・機能―

派遣講師 当研究所・富田常務
理事

対応者 当研究所・吉野専任研
究員

―フリストールの導入
をめくって―

◎大野町園芸研究会野菜栽培冬季
講座

主催 渡島大野農業協同組合
とき 平成四年一月十三日

テーマ 道南野菜に期待するこ
と

派遣講師 当研究所・富田常務
理事

◎栗山町冬期農業講座

主催 栗山町
とき 平成四年一月二十七日

テーマ 農産物ブランド化作戦
派遣講師 (株)博報堂統合本部
企画室 室長代理・平岡豊

◎第二十二回農協青年大学

主催 北海道農協中央会
とき 平成四年一月二十九日

テーマ 野菜の需給について―
野菜をめぐる環境と産
地形成―

派遣講師 当研究所・富田常務
理事

◎第二十五回農業セミナー

主催 拓殖大学北海道短期大学
とき 平成四年一月三十日

テーマ 担い手が語る北海道農
業

分拍報告 北海道農業の課題と
今後の取り組み方向
派遣講師 当研究所・富田常務
理事

各種研修会等への
講師派遣

北海道地域農業研究所では、各
種研修会・研究会への講師派遣な
どを次のとおり対応している。
(平成三年十一月～平成四年二
月)

◎第三回北海道の食糧と農業を考
えるつどい

主催 北海道の食糧と農業を考
えるつどい事務局
とき 平成三年十一月二十七日

基調講演テーマ
持続的な発展の道―い

ま、食糧と農業を考える
対応者 当研究所・千葉所長

◎第八十二回北海道農業経済学会

主催 北海道農業経済学会
とき 平成三年十二月十二
日

一、シンポジウムテーマ 北海道
農業の担い手問題

分拍報告 北海道野菜の位置づ
けと今後の展望―労働力
不足下の野菜生産の課題
と取り組みの方向―

対応者 当研究所・富田常務理
事

二、個別研究報告会

テーマ 酪農における新技術の
導入過程に関する試論

◎第七回空知冬期農業講座

主催 北農中央会岩沢支所他
とき 平成四年一月二十四日

テーマ 北海道菜野の位置づけ
と今後の展望

派遣講師 当研究所・富田常務
理事

◎国民の食糧を考える釧路連合会
第四回総会・記念講演

主催 国民の食糧と健康を守る
釧路連絡会
とき 平成四年一月二十五日

テーマ ガットの現局面と本道

酪農の展望

派遣講師 当研究所・千葉所長

◎普及推進協議会・研修会

主催 空知中部地区農業改良普

及所

とき 平成四年二月六日

テーマ 北海道農業の課題と今

後の取り組み方向

派遣講師 当研究所・富田常務

理事

◎北松山町農民塾

主催 北松山町

とき 平成四年二月七日

テーマ 情報システムはいま

派遣講師 当研究所・中村専任

研究員

◎企業者マインド醸成研修会

主催 石狩支庁

とき 平成四年二月十二日

シンポジウムテーマ

農業における雇用問題を

考える

パネラー派遣者

当研究所・富田常務理事

シンポジウムの開催案内

(社)北海道地域農業研究所では、シンポジウムを下記により開催いたします。第1回シンポジウムでは、生産、流通に携わる方がた及び消費者を交えて討論を行い、食料の生産から消費に至る過程で起きている、さまざまな矛盾や課題を明らかにするとともに、その解決の道を探ります。

テーマ 「食料の消費と生産を考える」

基調講演 「国民生活の中で農業とは」 暉峻淑子氏（埼玉大学教授）

〈パネリスト〉

「生協における食の安全と農産物に係わる取り組み」

佐々木珠美氏（市民生協コープさっぽろ検査室長）

「安全な食料生産を通じ、消費者との共生を目指す農村づくり」

四辻 進氏（北竜町農協参事）

「食料流通の課題」

澤田 一義氏（北海道女子短大助教授）

座長 岩船 修氏（北海道協同組合通信社社長）

とき 平成4年2月13日（木） 10時から16時まで

ところ 共済サロン 8階 芙蓉の間（札幌市中央区北4条西1丁目共済ビル）

主催 (社)北海道地域農業研究所

後援 北海道 北海道生協連 市民生協コープさっぽろ 北農中央会 ホクレン

*参加ご希望の方は、ファクシミリにて下記にご連絡ください。（定員になり次第締切ります。）

北海道地域農業研究所 FAX 011(751)1106 電話 011(751)1103



DATA FILE

関連事項 / DATA

北海道公立学校事務職員協会石狩支部
北海道恵庭北高等学校内
〒061-13 恵庭市南島松359-1

☎0123(36)8111

宮城教育大学
〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉

☎022(222)1021

北星学園大学
〒004 札幌市白石区大谷地828

☎011(891)2731

北星学園女子短期大学生活経済研究室
〒060 札幌市中央区南4条西17丁目

☎011(561)7156

生活協同組合市民生協コープさっぽろ
〒060 札幌市中央区北4条西11丁目13

☎011(271)7711

野菜と文化のフォーラム
〒101 東京都千代田区外神田2丁目19-9

☎03(3251)4330

(株)ワークボックス
〒060 札幌市中央区南2条東1丁目フラーテ札幌812

☎011(231)4002

(株)道新オントナ
〒060 札幌市中央区大通西18丁目道新西ビル4F

☎011(642)7701

(財)北海道農業協同組合学校
〒069 江別市文京台東町43-1

☎011(386)4311

読者から

秋季号が届きました。農業の身、農業の良さなどの書、有り難うございました。

暇々に読ませて頂いております。私も農業関係の本を少々読みましたが、「地域と農業」は中身が特別変わっているように思われます。自分たちが、日頃、身近なことに気づかないでいること、消費者と農業の関係、といった記事。また、三号でのエッセイ農民文学者時田様の作品は、実に素朴で農

村の静けさがひしひしと伝わってきました。

息子が拓殖大学の卒業生なので、「掲示板」に掲載の農業セミナーには、家族で出席することになっています。(沼田町・農業・大堀信子)

お知らせ

・会報の購読について

会員以外で本誌の継続購読を希望される方は、「ご連絡下さい。」購読料

年間 一、〇〇〇円(四冊分)

地域農業研究叢書NO1

「都市近郊水田農業の構造問題と発展方向」―東旭川農協「中期振興計画策定に関する基礎調査」報告書―

地域農業研究叢書NO2

「広域合併農協における営農指導体制」―とうや湖農協「総合情報管理センターに関する調査」報告書―

頒布価 各一、〇〇〇円(送料込)
申込先 北海道地域農業研究所
☎ 〇一一(七五二)一一〇三

編集後記

湾岸戦争、ワルシャワ条約機構解体、ソビエト連邦の消滅、ユーゴの内戦等々、世界情勢はめまぐるしく変わり、今年の出来事が去年かも頭のなかでこちゃこちゃになり、慌ただしく一年は終わった。

地域農研の発足以来はや一年が経過し、各テーマ別の研究チームの仕事も軌道に乗ってきた。それに従い会合なども頻繁に行われ、なにやら「働きすぎ」という気もしないではない。とりわけ、大学等の研究者のスケジュールはブッシュ大統領のみで、考えさせられる。

今回は、「女性から見た農業」を特集した。暮れの忙しいなか、お集まり頂くのはいささか気が引けたが、みなさん快くお引き受け頂き、感謝。座談会後の会食でも、農作業、農村の生活、この頃の消費者傾向などなど、話に花が咲いた。